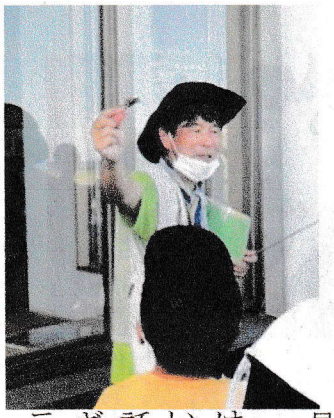
自然館だより

第9号
令和5年9月
発行
豊北町自然
観察指導員会
〒759-5332
下関市豊北町
角島 893-1
つのしま自然館
083-786-0430
（兼 Fax）

むしむし探検隊　イン　角島

八月六日(日)、親子昆虫観察会を開催しました。一〇家族三十四名の参加がありました。講師は、昆虫の生態に詳しい角田正明さんです。かんたんな日程説明の後、準備をして玄関前に集合しました。

ここでは、セミの鳴き声を聴き比べました。クマゼミが元気よく鳴いていました。講師の話によると、セミは種類により、決まった時間帯に大体鳴いているようです。鳴く時間帯の棲み分けをしているのです。さらに、玄関外の柱には、巣の形がサムライの陣笠似ているところからサムライトックリバチの巣も見られました。



展望台の前では、キリギリスがいました。最近の話題として、キリギリスにヒガシとニシの呼び名があるそうです。角島のキリギリスはニシキリギリスで、ニシキリギリスは体の色が濃い緑色をしていました。ニシとヒガシの境は、はっきりとしていませんが、兵庫県から岡山県辺遠征りではないかと言われています。

駐車場を出て、野外ステージに通じる道に出ると、道端に白いタカサゴユリの花が迎えてくれました。このタカサゴユリは外来種で、島のいたる所に咲いています。また、ソテツの葉にクロマダラソテツシジミ(先生が山口県初記録済み)が潜んでいることもあるそうです。ウスバキトンボも見られました。浜に出る前に水分補給をしました。首筋を冷やしたり、冷たい飲み物を飲んだりしました。

いよいよ砂浜です。このような猛暑では、さすがに昆虫はいないだろうと思いましたが、いましたよ。角田先生が先ず、ヤマトマダラバッタを見つけました。それに続いて子ども達、さらには、保護者の皆さんも気づき始めました。白い砂にまぎれて少し灰色がかっています。褐色の模様も見られます。このバッタは自然度の高い砂浜に生息しています。大浜海岸には、ずっと棲み続けてほしいと願っています。気になる事として、オオクビキレガイが島の多くの場所で見られました。浜で昆虫採集の時間を

と計画していましたが、猛暑のため、採集時間を短縮して屋外の観察を切り上げました。

角島の瀬戸のわかめはと人のむた
荒かりしかど我とはにぎめ
詠み人知らず
万葉集　第16巻（３８７１）

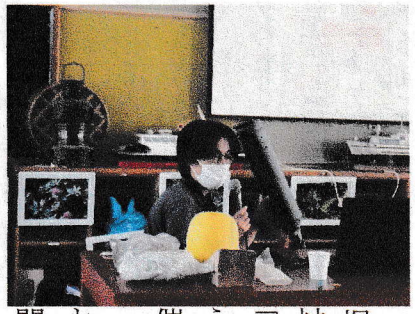
館に戻って後半は、飼育ケース作りです。家族は、新聞紙、マット(朽ち木を細かく砕いたもの)、二匹(つがい)のクワガタなどを受け取り、親子が協力してクワガタが生活できる場所を作りました。これから、大切に育ててほしいと思っています。

講師の角田先生は、最近、民放のテレビに出演して、昆虫採集の楽しさや虫の怖さ(危険性)などについて分かりやすく解説して、啓発活動などにも努めています。

今年は梅雨明けから全国的に高温、多湿の日々が続いていて、当日も山口県には、熱中症警戒アラートが発表されていました。

今回はスタッフの発案で、試みとして、初めて猛暑対策を講じました。氷水で首筋などを冷やしたり、飲み物を用意したり、棒状アイスを準備したりしました。皆様の協力で無事に観察会を終えることが出来ました。

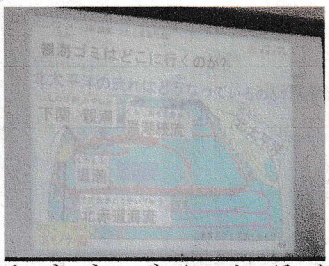
海ゴミの行方を考える



九月二十四日(日)、旧角島小学校の教材室で、出前講座「海ゴミの行方を考える」観察会」を開催しました。

この観察会を開催するにあたって、下関市生涯学習課の出前講座を活用することとしました。

当日は、二十七名の参加がありました。中には、島の人も飛び入りで参加していただきました。

講師として、水産大学校の嶋田陽一先生を招聘して、下関に漂着する海ゴミがどこから来て、どこへ行くのか、詳しく説明していただきました。まず、海ゴミは、どのようにして発生するかという事でお話がありました。陸にあるごみとしては、ペットボトル、容器のキャップ、缶、たばこ、食品容器などが挙げられます。また、海で発生するものとして、ロープ、ひも、漁網、釣り糸、ルアー等が挙げられます。これらの発生したゴミが、風等にのって海に運ばれて海ゴミとなるケースが多いようです。

最終的に下関のゴミは、東シナ海より、対馬海流にのって下関に漂着し、その後、日本海沿岸を北上して津軽海峡へ行くそうです。嶋田先生は「海ゴミをなくすには、ゴミを出さない生活を心がけることが大切です」と話しました。野外観察では、学校前の砂浜でカキの養殖パイプを探しました。陸側に集まったゴミを寄り分けてみると、パイプが十数本見つかりました。参加者はこんなにもあるのかと驚いた様子でした。秋晴れの良い天気でした。